

大林組グループ中期経営計画 '08

2008～2012年度

当社グループが継続的に成長するために対処すべき課題は「コンプライアンスの徹底」と「本業の収益力回復」です。
この度、収益力回復に向けた、平成20年度を初年度とする5カ年計画を策定しました。

目次

めざす企業像 … 3

基本方針 … 5

事業戦略 … 10

数値目標 … 16

めざす企業像

大林組は、

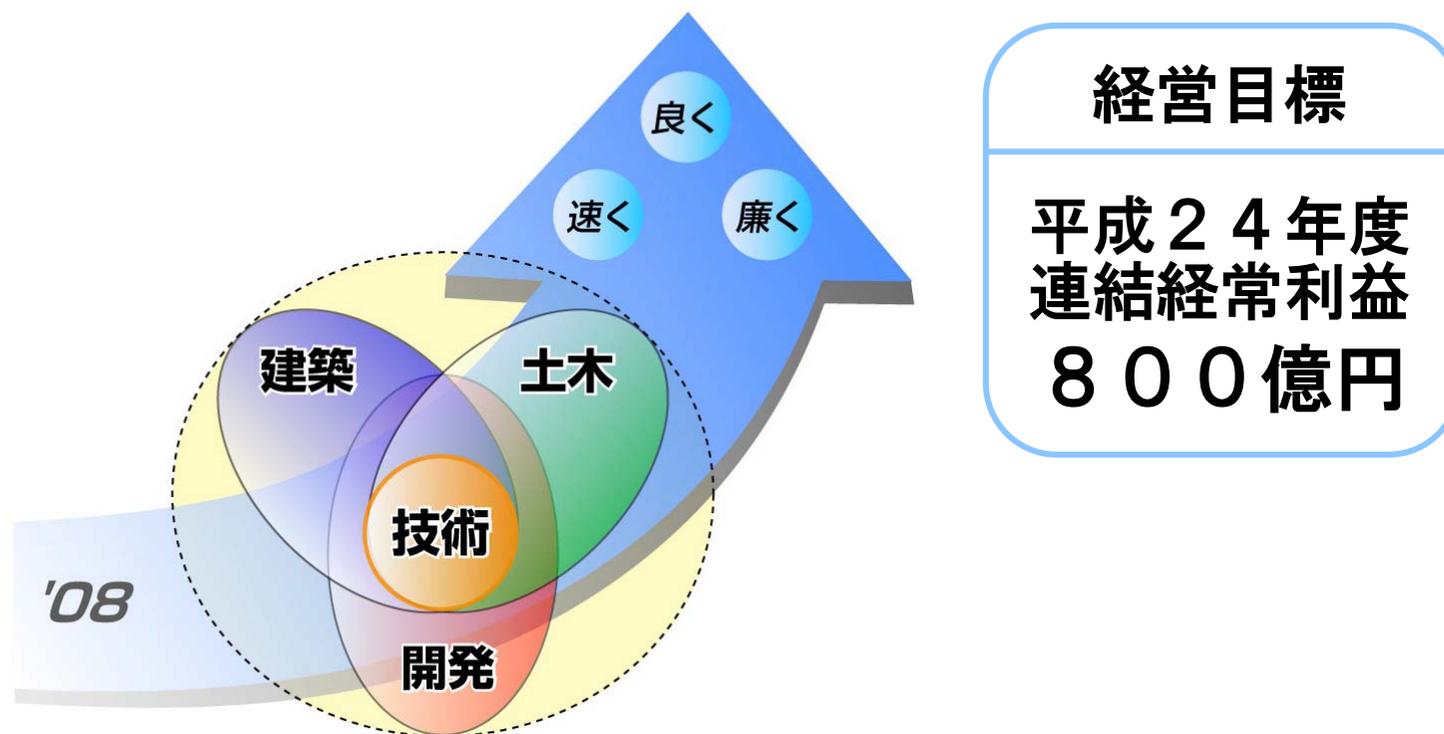
建設および建設周辺の事業領域

において、安全・安心を提供し

社会に貢献します。

企業像実現のために

「技術を核として利益成長企業へ」



当社グループの競争力の源泉である「技術」を一段と強化することで、グループとしての収益力を高めていきます。

基本方針

- 1 コンプライアンスの徹底
- 2 本業である建設事業の収益力強化
- 3 「売れる技術」の追求・実現
- 4 三事業(土木、建築、開発)を中心とし、
事業領域を拡大

基本方針 1

1 コンプライアンスの徹底

▶ 独占禁止法遵守プログラムの実践

個々の施策を確実に実行し、見直しのためのPDCAサイクルを実践

▶ 談合等監視プログラムによるモニタリング

執行体制とは独立した監査役会による法令遵守のモニタリング

▶ 健全な企業風土づくり

毎年4月の企業倫理職場研修による意識の醸成

基本方針 2

2 本業である建設事業の収益力強化

➡ 建物用途、工種別毎に戦略を立案、実施

具体策

○ 営業基盤の拡充

○ 優位技術の開発

○ 設計施工比率の向上

○ 提案力の強化

基本方針 3

3 「売れる技術」の追求・実現

顧客ニーズに合致した、
マーケット指向の技術



競争優位を確立

基本方針 4

4 三事業(土木、建築、開発)を中心とし、 事業領域を拡大

シナジー効果が期待できる周辺領域で
M&Aを含む新たな収益源の確保と
事業領域の拡大

土木事業戦略

- 1 技術で差別化を計れる工事への重点的取組み
- 2 提案(企画、技術、工法)とコスト低減による差別化
- 3 民間工事の受注拡大
- 4 海外土木事業の体制強化
- 5 基本品質の確保

建築事業戦略

1 建物用途別戦略の実施

➡ 建物用途に即した最適技術の開発と提案

2 営業力の強化

➡ 発注者ニーズに合致した提案型営業の強化

3 利益率改善のための取組み強化

4 基本品質の確保

開発事業戦略

1 組織体制の強化 → 開発本部を8月に新設

2 安定的収益である賃貸不動産事業の拡大

5年間の投資額 約1,000億円

3 出口を確保した新規開発案件への取組み

5年間の投資額 約1,000億円

4 フィービジネスの推進

技術開発戦略

「技術を核として利益成長企業へ」

1 組織体制の強化 → 技術本部を11月に新設

- 顧客ニーズに合致した、マーケット指向の技術開発
- 開発技術の有効活用
- 土木技術と建築技術の融合
- 技術による価格競争力、非価格競争力の強化

2 研究・技術開発投資の拡大

5年間の投資額：約700億円

3 保有技術を活用した周辺ビジネスの展開

I T 戦略

- 1 生産性向上及び工事原価低減のためのIT活用の促進
- 2 営業活動におけるIT活用の促進
- 3 ナレッジマネジメントの推進
- 4 BCP対応と最新セキュリティ技術の活用
- 5 ITを活用したビジネスの展開
- 6 時代を先取りした革新的なITシステム開発への挑戦

グループ事業戦略

1 新たな収益源と業容の拡大

2 M&Aを含めた事業領域の拡大

数値目標 (連結)

	現状 (H19年度予想)	3年後 (H22年度目標)	5年後 (H24年度目標)
経常利益	430億円	600億円	800億円

(参考値)

総売上高	16,800億円	17,400億円	18,500億円
売上総利益 (利益率)	1,160億円 (6.9%)	1,360億円 (7.8%)	1,570億円 (8.5%)